

## 10. さらに道へ

神戸シルバー大学院 副学長 池本廣希

SGSが発足して20周年を迎えられたこと誠にめでたく、まずは、お祝い申し上げたい。学舎を持たず、職員も持たず、いっさい学生の手によるシルバー大学院の運営が20年、筆舌に尽くし難いご苦労と喜びとが交錯した20年間であったのではないのでしょうか。

本記念誌でも述べられてるようにSGSが、かくも持続可能となった理由は、その運営の仕組みにあり、それが連綿と受け継がれてきたからだとサラリとおっしゃっている。全国的に稀有なSGSは、その運営に関わる意志決定が在校生から選任された役員による理事会にあること、即ち、いっさいの大学運営を自主運営でなされてきたこと、これは快挙です。

20周年を迎えたSGSは、「所有」から「使用」への価値を広げようとする現代において、校舎を持たずに地域を学舎（地域の自然・歴史・文化・博物館・図書館等）とし、「新たな知の発掘」や「地域社会の貢献」に一役買って来たと言ってもいいのではないのでしょうか。

どの大学もその運営には職員の手がなくては成り立ちません。にもかかわらず、SGSは県民会館の会議室を教室としながら授業時間割から教室利用の手続き、そして研究発表会の段取りや研修旅行の計画まで、何から何まで自力で運営に尽力されてきました。

私は、SGSに加わってまだ日は浅いのですが、学生の皆さんの学習、特に個人又はグループでのフィールドワークによる調査研究やその成果発表、また毎年楽しみな一泊研修旅行に参加し、同世代ながらいつも新たな“生きる力”をいただき感謝申し上げている次第です。

ただ、感謝申し上げながら気になることがあります。昨年世界の総人口は80億人に達しましたが、わが国の新生児は80万人を割りました。このままでは「さらに学んで次世代のために」という建学の土台が危うくなります。同時に、忍び寄る世界的食糧危機は、日本が一番危ない。くらしの安全・安心のための“基盤”、とりわけ“食糧自給”をどう取り戻すのか？という“いのち”に直結する生存権にかかわる根本問題です。「次世代」のために残してはならない「現役世代」の“絶対的使命”です。

私の団塊の世代の新生児は、200万人を超えていました。思い返せば溢れんばかりの教室で学習し、それだけに不幸？にも先生の目の届かない幸せな？学習環境で育ちました。その「不幸で幸せな」教育期間を終え、私も再びSGSで皆さんとともに学習し続ける幸せを頂きました。最後に、「さらに道へ」向けて、本記念誌から先輩のメッセージを届け、あとがきに代えたいと思います。

「じっくり」「ゆっくり」「つづける」という学びの姿勢と「次世代の健康・生命を守るためには、人任せ・国任せにしないで自分自身で行動を起こさなければならない」との力強い心構えを頂きました。肝に銘じておきましょう。そして繰り返しますが、これからも「さらに学んで次世代のために」を建学の精神として継承し、「現役世代」と「次世代」と「世間」の「三方よし」の世の中に向って、さらにみんなでもとにあゆみ続けましょう。